

独自のステッカー作製し支援

「ひまわり募金」のリトアニア窓口となって支援を担うトラカイ・ロータリークラブをコーディネートしてくれているダナス・リムディカさんから連絡が届きました。

リトアニアにはすでに4万2千人のウクライナ人が到着しており、そのほとんどが子どもを連れた母親たちです。トラカイの孤児院にはまた、子どもたちのグループも何組か到着しています。



首都ヴィリニウスの西方28kmに位置する湖畔の観光地トラカイ



支援を担うトラカイ・ロータリー・クラブは、コンピューター（彼らが遠隔学習を続けられるように）、洗濯機、家具、衣類、靴、衛生用品を家族や子どもたちに支援する予定です。私たちはステッカーをデザインしました（左写真）。このステッカーは、これらの支援物資に貼られる予定です。

各地のとりくみ



愛知県名古屋市の東北原水協は4月9日午後12時半より大曾根駅前では9の日宣伝をおこない5人が参加。「ロシア軍のウクライナ軍事侵攻への抗議・ただちに撤退せよ」「日本政府は禁止条約にただちに参加を」と訴えました。早く終わってほしいと念じるような方、募金を届けてほしいという方、戦争の悲惨さを伝える方など、街頭からの声があいっくも届きました。「禁止条約参加署名」16人分、募金500円が寄せられました。（愛知県原水協事務局長・佐竹康行）

熊本県原水協は4月9日、熊本市内で6・9行動にとりくみ、のべ25人が参加。「禁止条約参加署名」60人分と2,273円の募金をいただきました。特に若いみなさんからのカンパが多かったように思います。



（熊本県原水協事務局長・笹原和典）



【写真は、抗議ハガキに応じる青年男女／熱心に説明に聞き入る高校生たち／兵商連事務局は「イマジン」流しながらスタンディング】

兵庫県原水協は4月6日、6・9行動をおこない、県被団協の立川理事長がご自身の被爆体験を紹介しながら、「核兵器の使用をちらつかせての脅迫は、被爆者の苦しい気持ちを踏みにじるもので許せない。すぐに戦争を中止して」と訴えました。プーチン大統領への抗議ハガキに、「非常に野蛮で時代遅れの侵略を今すぐ止めて」などと思いを書き込む若い人たちの姿が目立ちました。「ウクライナの人たちを救って...」と1万円札を投げこむ人もいました（3月6日の行動でも1万円札の募金がありました）。15人の訴えに抗議ハガキを持ち帰る人も多く、「禁止条約参加署名」21人分が寄せられました。

香川県原水協の4月の6・9行動は、「ひまわり募金」を中心に訴えました。準備中に「プーチンはウクライナから手を引け」のプラスターにうなずきながら通りすぎる中年男性。訴えを始めると、共鳴する市民が、次々と募金に応じます。高松市内在住の40代の女性は1,000円の募金をして、署名にも応じます。「岡山県から来た」と言いながら署名とカンパする方、中には「署名はできないが」とコインをカンパしてくれる若い女性もありました。



石川県金沢市から来た方は「おまえらすごい！交番の前でやっている」とカンパと署名に応じました。民青の県委員長は、4月締め切りを気にかけて、19人分の「禁止条約参加署名」を持って参加。40分の行動には8人が参加し、署名は12人分、募金は3,196円と街頭募金の記録を更新しました。（香川県原水協事務局長・福井利夫）



新潟県原水協は4月10日、桜がほぼ満開の白山公園で花見客を対象にウクライナ問題での宣伝を、原水協も、平和行進実行委員会も加わるピースフェスタ実行委員会で、実施しました。実行委員の5人でミニパネル／高校生の描いた原爆の絵を手に持ちスタンディングしながら、チラシと「禁止条約参加署名」と憲法9条署名、「ひまわり募金」を訴えました。これほど深刻な問題なのに、なおチラシの受け取りはあまりよくないのですが、募金に応じてくれる人はある程度おり、3,265円が寄せられました。署名は9条署名3人分、「禁止条約参加署名」は2人分でした。

今日最大の収穫は、高校生グループとの対話でした。インターネットを通じて、今若い世代で現代を考えようというとりくみをしている。ぜひネットやメールで繋がり、機会があれば、話もしてほしい、と、つながりができたことです。（新潟県原水協代表理事・赤井純治）

各地のとりくみをお寄せください。